

TOKYO INSTITUTE OF TECHNOLOGY CHRONICLE
東工大クロニクル

No.421

May 2007

CONTENTS

ニュース・イベント

- 2 工学部機械知能システム学科の革新的機械工学教育カリキュラム 社団法人日本機械学会教育賞を受賞
- 5 統合研究院 第2回エネルギーワークショップ「エネルギーシステムの未来」をテーマに開催
- 8 Art at Tokyo Tech
—大岡山キャンパス西9号館の Arts
- 11 平成19年春の褒章・叙勲
- 11 2007年度就職説明会
「留学生のためのキャリアトーク」を開催
- 12 大岡山とすずかけ台の「キャンパス将来計画」策定される

学生

- 14 報告 The 2nd China-Japan-Korea Student Symposium on Mechanical Engineering (Thermal/Fluid engineering)

お知らせ

- 16 平成19年度 類別クラス担任・クラス担当助言教員等一覧
- 17 平成19年度 学科長及び2年次以降の助言教員名簿
- 18 平成19年度 専攻長一覧
- 19 人事異動
- 22 謹告
- 22 掲載記事公募のお知らせ



工学部機械知能システム学科の革新的機械工学教育カリキュラム 社団法人日本機械学会教育賞を受賞



2007年度就職説明会
「留学生のためのキャリアトーク」を開催



大岡山とすずかけ台の「キャンパス将来計画」策定される

ニュース・イベント

工学部機械知能システム学科の革新的機械工学教育カリキュラム

社団法人日本機械学会教育賞を受賞

岩附 信行

日本機械学会教育賞

工学部機械知能システム学科の「レクチャー・ラボ統合型授業に基づく機械工学教育カリキュラムの構築と教育効果の向上」（機械知能システム学科教員団，代表：学科長 岩附）が2006年度社団法人日本機械学会教育賞を受賞し，さる2007年4月6日（金）にアルカディア市ヶ谷（私学会館）にて開催された第84期日本機械学会通常総会の表彰式において賞状および賞牌を授与されました（図1）。日本機械学会教育賞は，社団法人日本機械学会が2001年度より機械工学・工業分野に関わる教育活動において顕著な業績をあげた会員個人またはグループに贈賞するもので，本学としては今回で4件目の受賞ですが，これまで単一の創成型科目などの受賞はあるものの総合的なカリキュラム全体が受賞対象となったのは初めてであると聞いており，その意義を感じております。

レクチャー・ラボ統合型授業に基づくカリキュラム

今回，受賞に至った「レクチャー・ラボ統合型授業に基づく革新的機械工学教育カリキュラム」は，従来，別個に行われていた講義・演習・実験を統合し，基本的に同一日に，講義・演習さらに受講生全員が5～8名の小グループに分かれて実験を行うもので，受講生は日を置かずに受講内容の理解を深めることが可能となっています（教育プロセスの統合）。また，材料力学と機械力学，流体工学と熱工学，材料学と生産加工学，電気電子工学と制御工学など関連の深い分野を有機的に結合して，それぞれ「変形と振動の力学」，「エネルギーと流れ」，「設計と生産の工学」，「メカトロニクス工学」といった複数の教員が担当する科目（表1）となっており，受講生は機械工学の根幹を成す基礎学問分野とその応用を効率的に修得できるように配慮されています（分野の統合）。さらに，いくつかのアドバンスド科目を履修し，課題研究実践授業「プロジェクト研究」

により系統的な調査研究とプレゼンテーションの訓練を積んだうえで，創造性育成科目「機械知能システム創造」において，それまでに培ってきた知識を結実させて独創的なアイデアを盛り込んだ創造的な機械システムを設計・試作・評価することにより，より実践的な工学を修得します。そして最終的に4年次の学士論文研究を経て専門的素養をも身に付け，堅牢な工学知識をもちつつ創造性に富んだ学生を育成しています。以上のカリキュラムの詳細については学科公式 WEB サイト：<http://www.mep.titech.ac.jp/index.html> をご参照いただきたく存じます。

カリキュラム改革のための準備と実践

本学科では，授業時間数の減少や教育すべき工学分野の多様化に伴う学生の修学の未消化を問題視し，より効率的かつ創造的な授業を学生に提供することを目指して，数年にわたる検討・試行を経て，2002年度より学習課程を大幅に刷新し，今回受賞した「レクチャー・ラボ統合型授業に基づく革新的機械工学教育カリキュラム」を構築しました。その最も特徴的な「レクチャー・ラボ統合型授業」を実施するには多くの人的・物的な準備が必要でした。まず，講義から多数の小グループでの実験が可能となる可動テーブルや給排水・電源，あるいは換気といった設備を備えた学科自前の教室（学習室，図2）を用意しています。この教室には，課題研究実践授業などの学生のプレゼンに活用できるように，複数台のプロジェクタ（図3）を設置するとともに，学生がグループごとに解析計算や実験に使用できるように，ノート PC を配備（図4）しています。このほか，メカトロニクス教室（図5）や3次元 CAD 教室（図6）も活用しています。さらに，同時に全学生が実験を実施するためには，ポータブルな実験装置（表2）を多数用意するとともに，多数の教員・TA が実験指導に当たる必要があります（図7～図10）。さらに，その日のうちに実験結果を整理し，それに関する工学的情報を収集してレポートを作成するために，3次元 CAD を含むグラフィクスソフトウェアや高度な解析ソフトウェアがインストールされているインターネット接続された高機能 PC 群を学生室に配備して，終日学生に開放しています（図11）。この設備は後述する創造性育成科目における最重要ツールにもなっています。これらの人的，物的な負担はたいへんなものではありますが，教育効果の向上に資するところはめざましいものがあります。

創造性育成科目を通じて能動的な人材育成

レクチャー・ラボ統合型授業およびアドバンスド科目で工学的素養を培ったのちに、創造性育成科目「機械知能システム創造」において、学科の各研究室の指導の下に独創的な機械システムを設計・製作＝「ものづくり」します。とくに強調したいのは、単に独創的なアイデアのみではなく、そのアイデアの工学的背景を明確化し、堅牢な設計を行うことが要求されていることです。またこの際、学生は機械工作実習を義務付けられており、自らの必要に合わせて、種々の加工方法を学び、設計に反映させつつ、自らの独創的な機械システムの試作を完遂できるように配慮されています。成果物（例：図12, 13）については、いくつかの中間発表を経て、学内外に開放した最終発表会を行い、さらにその後の学協会などのイベントにおける発表もあり、受講学生は自らの成果を強くアピールします。例えば2005年度の「愛・地球博」（図14）や2006年度の「国立科学博物館展示：テクノロジスクエアへようこそ」（図15）に参加しました。そこでのデモンストレーションの準備やアピールの努力により、能動的で広い視野を持つ人材を育成することができます。

さらなる改善へ

今回の受賞は、上述のカリキュラム全体の効果とそのための努力が評価されたものと自負しております。これまでカリキュラム改革の検討と実践に尽力いただいた現・旧の学科教職員に、とくに改革の初期段階から「レクチャー・ラボ統合型授業」を立案、実施を先導してきた機械物理工学専攻岸本喜久雄教授に感謝の意を表します。また教育環境の整備にご協力いただいた関係各位に御礼申し上げますとともに、さらによりよいカリキュラムのために一層の努力を続けていきたいと考えています。

表2 レクチャー・ラボ統合型授業のために開発した実験装置

レクチャー・ラボ統合型授業	開発した小型・可搬実験装置または製作実習
変形と振動の力学 第一・第二	棒の圧縮・引張試験装置 はりの曲げ試験装置 2次元応力場・応力集中呈示装置 剛体振子式1自由度・2自由度自由振動測定実験装置 コイルばね-質量式1自由度・2自由度自由振動測定実験装置 板ばね-質量式1自由度・2自由度自由振動測定実験装置 1自由度・2自由度強制振動呈示装置 実験振動モード解析呈示装置
エネルギーと流れ 第一・第二	熱電対の時定数測定装置 熱伝導率測定実験装置 強制対流熱伝達率測定実験装置 2次元温度分布測定装置 熱-電気変換測定実験装置 落球式粘性測定実験装置 回転2重円筒式粘性測定実験装置 ビトー管による速度・エネルギー測定装置 水車式運動量測定装置 レイノルズ乱流可視化実験装置 ウインドカー製作実験
設計と生産の工学 第一・第二	リンク機構製作実験 板カム機構製作実験 はめあい試験装置 2次元・3次元CADパーツデータ 3次元CADチュートリアルコースウェア 熱分析実習 炭素鋼組織観察実習 アルミニウムの熱処理実験装置 アーク溶接実習と機械的性質の測定実験装置 NCマシニングセンタのプログラミングと加工実習
メカトロニクス工学	OPアンプによる電子回路演算呈示装置 デジタル-アナログ混在演算呈示装置 DCサーボモータによる位置フィードバック制御実験装置 回転モーター減速伝達機構によるリニアアクチュエータ装置 平面マニピュレータの位置決め実験装置

表1 レクチャー・ラボ統合型授業

科目名	内容（統合の理由）	学期	単位数
変形と振動の力学 第一・第二	材料力学，機械力学 (基礎方程式の共通性)	2年前後期	ともに 3-1-1
エネルギーと流れ 第一・第二	流体工学，熱工学 (移動現象の共通観点)	2年前後期	ともに 3-1-1
設計と生産の工学 第一・第二	材料工学，設計工学， 生産加工学 (材料から加工方法までの設計)	2年後期 3年前期	第1 3-1-1 第2 3-1-2
メカトロニクス工学	制御工学，電気電子工学， 伝動工学 (メカトロニクスシステムの設計)	3年前期	3-1-1



図1 日本機械学会教育賞賞牌



図2 学科学習室



図3 複数配備したプロジェクタの映像



図4 学習室に配備したノート PC



図5 メカトロニクス教室



図6 3次元 CAD 教室



図7 講義「変形と振動の力学」



図8 講義「設計と生産の工学」



図9 講義「エネルギーと流れ」



図10 講義「メカトロニクス工学」



図11 高機能 PC 群を終日開放した学生室



図12 マイクロ蒸気タービン

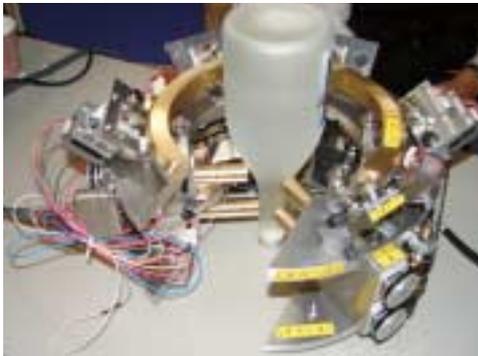


図13 抱きつき型真円度測定機



図14 「愛・地球博」における展示



図15 国立科学博物館における展示

(工学部機械知能システム学科長,
理工学研究科機械物理工学専攻 教授)

統合研究院 第2回エネルギーワークショップ 「エネルギーシステムの未来」をテーマに開催

高木 勲生

統合研究院は4月12日(木)、百年記念館のフェライト記念会議室で「エクセルギーから見たエネルギーシステムの未来」と題したワークショップを開いた。統合研究院がソリューション研究の一つとして取り組んでいる「先進的エネルギーマネジメント(AEM)」研究プロジェクトの一環で開いたもので、エネルギーワークショップとしては昨年9月に次いで2回目。地球温暖化をもたらす二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らすにはエネルギー利用の一層の効率化や省エネが欠かせないが、ワークショップでは熱力学の概念である「エクセルギー(有効エネルギー)」をキーワードに、廃熱の有効利用やそれを可能にする産業ネットワーク、エネルギーシステムのあり方などについて熱心に議論を交わした。企業など学外関係者の関心も高く、90人近くが参加して会場はほぼ満席だった。

ソリューション研究の一環で開く

統合研究院は、東京工業大学が文部科学省の科学技術振興調整費「戦略的研究拠点育成プログラム」(通称:スーパー COE)を受け、相澤益男学長自らが院長になって2005年10月にスタートした組織である。数年後から10数年後の社会・産業のあるべき姿を大学が自ら描き、その実現のために何を研究しなくてはならないかを考えて課題を設定、大学の多様な知的資源を動員して、その解決に取り組もうという「ソリューション研究」の確立・定着を目指している。大学で通常進められている、研究者の関心で決めたテーマを学問体系に沿って掘り下げる「ディシプリン研究」や、附置研究所などが組織的・総合的にひとつの目的を追究する「基盤技術研究」と並んで、大学における研究の「第3の柱」に育てようという試みである。

今回のワークショップは、統合研究院が進めるソリューション研究の一つ、「先進的エネルギーマネジメント(AEM)」プロジェクト推進の一環として開いた。統合研究院はAEMプロジェクトをはじめとして、学内のさまざまな研究科や附置研究所の研

究者と協力しながら課題解決を目指す7つの研究プロジェクトに取り組んでいる。このうち、AEM プロジェクトが取り組む課題は、大学キャンパスやオフィス街、工業地域など一定エリア内に再生可能エネルギーや省エネ技術など研究段階の技術も含む先進技術を最大限取り込んだときにどのようなエネルギーシステムが最適になるかを探り、10数年後に広く普及する革新モデルを実現しようという狙いである。その第一段階として、大岡山キャンパスを実験場にして種々の先進機器を導入する検討を進めている。学内の複数の研究者のほか、学外からも企業8社が加わったAEM 研究推進委員会を立ち上げ、産学連携による研究プロジェクトの推進体制作りを進めている。

エクセルギーと AEM プロジェクト

ソリューション研究では、取り組むべき課題の設定や明確化も含めて、研究構想の段階から広く社会や産業界、学外の専門家の声を聞き、相互に連携・協力関係を築くことが重要な作業となる。ワークショップの開催もその有力な手法の一つと位置づけている。今回は、世界でいちばん省エネが進んでいる日本でも、投入されたエネルギーの約3分の2は有効に使われないまま廃熱として捨てられているということに注目し「エクセルギー」をテーマに選んだ。「熱力学」の観点からすれば、石油や天然ガスといった一次燃料を燃やしたときの熱エネルギーがすべて発電機のタービンや車を動かすなどの有効仕事に使えるわけではないが、有効に使えるはずのエネルギー「エクセルギー（有効エネルギー）」も十分には使い切っていない。AEM プロジェクトを推進するにあたっては、こうした視点からの研究も欠かせないと判断したわけである。

ワークショップの講師は、学外から東京大学生産技術研究所の堤敦司教授、北海道大学エネルギー変換マテリアル研究センターの秋山友宏教授、また学内からは理工学研究科の岡崎健教授の3人。いずれも日本を代表するエクセルギー論の研究者であり、講演でも具体的な事例を交えながら丁寧に解説してくれたため、主催者の一人としては極めて有意義なワークショップになったと思っている。AEM プロジェクトを側面から支援する立場にある私自身はもとより、プロジェクトに参加している研究者や聴講した企業からの参加者などにとってもかなり刺激になったようだ。

まず、AEM プロジェクトのリーダーの一人、理工学研究科の石井彰三教授の司会でワークショップは始まった。同じくリーダーの統合研究院・柏木孝夫教授がプロジェクトの狙いなどを紹介、「昨年5月に決まった新・国家エネルギー戦略では2030年までに石油依存度を現在の50%から40%以下に引き下げることや、省エネルギーの推進（30%低減）、新エネルギー導入量を4%にすることなど、5つの数値目標が示された。これらを実現するには、エネルギーシステムのパラダイムシフトが必要だ」と指摘した。熱エネルギー⇒化学エネルギー⇒電気エネルギーという、従来のエネルギーシステムが持つ通常のサイクルとは逆向きのルートを考慮した技術開発が重要との考え方を示し、「この考えの基礎となるのがエクセルギー理論である」とした。

廃熱でエネルギー利用の逆カスケード

次に「エクセルギー増進による高度エネルギー利用の基本的考え方」をテーマに、岡崎教授がエクセルギーについて分かりやすく解説しながら、水素の高度利用を核とした複合エネルギーシステムなどの構想について話した。その中で岡崎教授は、「物質の持つエネルギーに対するエクセルギーの割合（エクセルギー率）はその物質の持つエネルギーの質を表す」として、熱や電気だけでなく化学エネルギーも含めて物質変換・エネルギー変換プロセスを見直してみると、既存のエネルギー利用体系で何が大きなエクセルギー損失になっているか、熱・電気・化学のマルチパス・エネルギーリサイクルによる高度なエネルギー利用体系の道筋が見えてくると指摘した。また、「中低温廃熱を吸熱化学反応により質の高いエネルギーに変換し、再利用する逆カスケード（エクセルギー増進）も可能となる」とし、こうした考えを推し進めると、異なる産業の結合による新しい産業ネットワークの形成や、石炭ガス化を核とする多様なコプロダクションモデル、水素の高度利用を核とした複合エネルギーシステムなどが構想できる、と強調した。

「エクセルギーの視点に基づいた循環型社会グランドデザイン」をテーマに講演した東大の堤教授は、循環型社会を構築する3本の柱として①コプロダクション②エクセルギー再生③物質・エネルギー再生について概説し、石油精製・石油化学分野を例として大幅な省エネルギー化を実現するコンビナート設計手

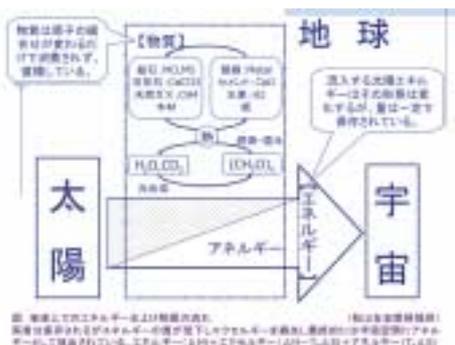
法などについて解説した。この中で堤教授は、エネルギーの評価指標としてエンタルピーを基準としたエネルギー効率や原単位換算によるCO₂排出量、LCA（ライフサイクルアセスメント）に加えて、物質とエネルギーの流れを考慮したエクセルギー基準の新しい指標の必要性を指摘し、「これからのエネルギーシステムでは個別最適化から全体最適化へ、コプロダクション、エクセルギー再生を考慮し、物質とエネルギーのリサイクルを目指すべきである」と訴えた。

エネルギーと物質循環の最適化を

最後に、北海道大学の秋山教授が「エコ・ネットワーク設計法」をテーマに講演した。近年、ごみの最終処分場不足や地球温暖化対策など環境やエネルギーに関する問題は深刻さを増している。これらの問題は個別に論じられることが多いが、秋山教授によると「実は同じ問題として捉え直すことができる」という。例えば、一般的に石油はエネルギー、木材は材料と分類されるが、前者はプラスチック原料、後者は燃料になり得る。エネルギーと物質は区別しないで論じることができ、環境・エネルギー問題は「エネルギーと物質循環の最適化問題」と言い換えることができると主張した。このとき、最適化とは一体何かが問題になるが、実は最適化のための目的関数が共通認識として明確になっていないことが最大の問題点という。この点について、秋山教授は「物理学の保存則にあるように、実はエネルギーも物質も消費することはできない。我々が消費できるのはエクセルギーだけだ」（下図参照）



秋山教授の講演に聞き入る来場者。会場はほぼ満席だった。



として、エクセルギー変化に注目すればどこに着目して省エネルギーを推進すべきかが見えてくると指摘した。秋山教授は、こうした実践例としてデンマークのカルンボー（Kalundborg）市で試みられている産業ネットワークを紹介した。高温の熱を扱う石油精製工場と発電所が核となって産業ネットワークを構築し、廃熱を有効に利用してエクセルギーの無駄を大幅に減らそうというものである。

この後、パネル討論に移り、エクセルギーの考え方を活かすための手段や注意点、用語の定義などについて質疑応答と討論が行われた。産業ネットワークの形成については、「日本には30弱の高炉と多数のスクラップ熔解設備があり、1500℃の粗鋼を熱回収することなく放出しているの、まだまだプロセス間リンクや異業種連携の余地がある。従来、コンビナートは物流を第1に考えて臨海地域に作られているが、物質と熱の最適利用という観点で見直しが必要ではないか」などの指摘があった。太陽エネルギーの利用では、熱利用は温水になるとエクセルギー率が2%～3%とごくわずかになるため、太陽電池で電力を生産する方がエクセルギーの効率は高いといった議論があった。一方、都市計画では最近、行政からCO₂排出原単位の削減の要請があるが、エクセルギーの方が汎用的であり、CO₂排出原単位に替えてエクセルギー損失を指標とするロジックはあり得るのではないかと提案もあった。

なお、エクセルギーについて詳しく知りたい場合は、『エクセルギー工学—理論と実際』（吉田邦夫編、共立出版、1999年2月＝但し、品切れとのこと）、『物質・エネルギー再生の科学と工学』（葛西栄輝・秋山友宏共著、共立出版、2006年2月）を参考に。



熱心な議論が繰り広げられたパネル討論
（左から高木、司会の石井、パネラーの柏木、岡崎、堤、秋山の各教授）

（統合研究院ソリューション研究機構イノベーションシステム研究センター 特任教授）

Art at Tokyo Tech ——大岡山キャンパス西9号館の Arts

肥田野 登

東工大には様々な芸術作品があります。いうまでもなく、70周年記念講堂、百年記念館等の建築物群、百年記念館に展示収納されている、文化勲章受賞者であり、東工大の教員であった、板谷波山、同じく文化勲章受賞者で本学出身、英国のバーナード・リーチによばれて、世界的に活躍した浜田庄司、本学出身で人間国宝の島岡達三の陶芸作品、あるいは石井勢津子のホログラフィー、岡本陸郎の絵画などです。実は大岡山キャンパス西9号館にもいくつかの作品があるので紹介とその背景について述べてみたいと思います。

1. サーカスシリーズ「リリ」1968年 リトグラフ (写真1)

「アネモネのある静物」1986年 リトグラフ
(写真2)

ベルナール・ビュフェ Bernard Buffet

ビュフェは著名な芸術家ですので、多言は必要ないですが、作品と直に対話することがなによりかと思えます。多目的デジタルホールにあります。なお、この作品は大学院理工学研究科機械宇宙システム専攻の宮内敏雄教授の選択によるものです。



写真1

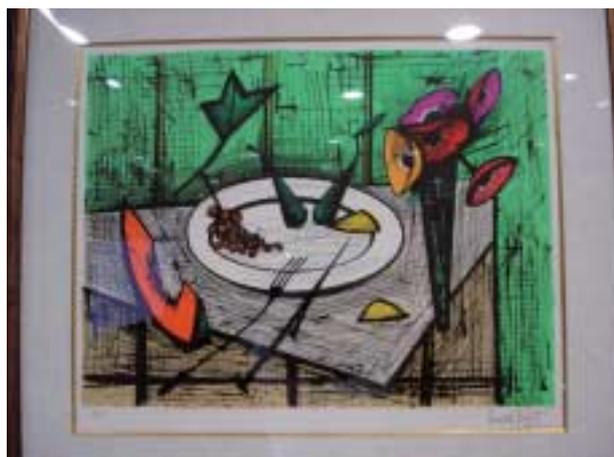


写真2

2. 「ビッグチェンジズ」2002年及び2004年 エッチング (写真3, 4, 5, 6)

ヨルク・シュマイサー Jörg Schmeisser

この作品は氷山の崩壊過程を一枚のエッチング板を使用し一面ずつ完成させその上に次の面を書き込む手法を用いて表現したものです。左から右に、氷山が溶けていく過程がわかります。前の面との継続性が部分的に見て取れます。1998年に作者が南極へ旅して、生まれたものです。オーストラリアの南極基地モーソンとデイヴィスで構想されたたくさんの作品の中の代表的な一つです。氷山は崩壊過程で、ある瞬間に上向きの氷山が逆転し、今まで海中にあった部分が海上に現れるという信じられないような光景が出現するそうです。そしてそれに遭遇した驚きを作者は熱心に語ってくれました。7枚の連作であるこの作品の完全なコレクションは東工大とオーストラリア国立美術館にあります。具象的ではありませんが、むしろその抽象性から様々な思いが湧き上がってくれば幸いです。



写真3



写真4



写真5



写真6

作者のヨルク・シュマイサーは1942年に当時ドイツであったバルト海に面したポメラニア（現ポーランド）に生まれました。俳優を目指したけれど美術に転向して、ハンブルグ造形芸術大学を卒業しました。また京都市立美術大学大学院に留学しています。その後近東、中東の考古学発掘現場で画家として働き、たくさんの作品をつくりあげています。彼の作品に見られる文字、記号そして細密な画法はこれらの産物でしょう。1978年にキャンペラ美術大学で版画科の教授となり1997年退官。その間、京都精華大学、プリンストン大学あるいはエルサレム、パース、

ホバート、杭州で教授、訪問芸術家として活躍しています。またヒマラヤのラダックからカンボジアのアンコール、南極と世界のどこにでも訪れ作品を残しています。現在、京都市立芸術大学版画科教授ですが、オーストラリアに住んでいます。同氏には、版画に限らず、水彩画にもすばらしい作品があります。同氏の作品はニューヨーク近代美術館、大英博物館、オーストラリア国立美術館、パリ国立図書館、ドレスデン国立美術館をはじめ世界の主要美術館に収められています。

3. 「無限の重なりⅠ」2002年 クロス デジタルプリント（写真7左）

「尖った輪」2002年 クロス デジタルプリント（写真7中央）

「無限の重なりⅡ」2002年 クロス デジタルプリント（写真7右）

雨森敬子 Amenomori Keiko

これらの作品群は西9号館ホールの奥にある壁にかかっていました。この作品はこれまでいくつかの展示会ですでに発表されたものですが、壁とあわせた新しい作品と見るのが適切で、壁自体も作品の一部です。壁の赤は作者の選択によるもので特別に調合されています。ヨルク・シュマイサーの版画が重い色調なので、こちらはその対比で作られています。本来はケースをはずしたかったのですが、公共空間であるため、止むを得ずケースにはいっています。テキスタイルの作品ですから、本来は風になびくのが望ましい訳です。



写真7

現在この壁にかかっているのが、

4. 「深輝」2005年 麻 絞り、顔料（写真8左、9）

「青と金のおもいで」2005年 麻 絞り、顔料、抜染（写真8右、10）

雨森敬子 Amenomori Keiko

「深輝」は、オーストラリアの大自然に見られる

特有のテクスチャーや、燃え立つような大地の輝きをテーマにした作品です。稲妻が走るような線は、主張をする自然の法則を意味しています。また「青と金のおもいで」は、作者が2005年に旅したヴェネスをモチーフとした作品です。なかでも運河の青い水の色と、鮮やかな工芸品の金の色が歴史の重さを表しています。青い部分の凹凸が深みを与えています。これらの作品はこの場所にあわせてイメージされ制作されたものです。作品をみると、地球史上独自に展開してきたオーストラリア大陸にも、あるいは数え切れない哲学者（例えば20世紀後半の最大の哲学者の一人であるデレク・パーフィット）、芸術家（例えばヨシフ・ブロッキー）を魅了した人工島ヴェニスにも旅立ちたくなる、想像の世界が時空に広がります。3., 4. の作品は随時入れ替えが行われます。



写真8



写真9



写真10

5. 「雲と遊ぶ」2002年 デジタルプリント ポリエステル (写真11, 12)

雨森敬子 Amenomori Keiko

この作品は西9号館のホールのある2階を進み、

新館のホールの吹き抜けにあります。子供時代に雲を見て何かを想像した、形と動きを表現しています。ホールへの人の出入りとともになびき、ポリエステルが軽やかに光ることが望まれています。1階から見ると異なる姿となります。



写真11

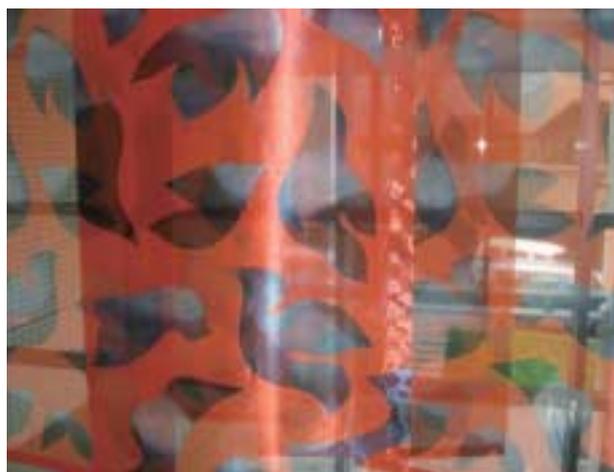


写真12

雨森敬子は芦屋出身、1979年にハンブルグ造形芸術大学テキスタイルデザイン科卒業、オーストラリアおよびハンブルグ工芸美術博物館、春日大社、オーストラリア大使館（ワシントン DC）で数多くの個展を開いています。NSW National Women in Construction Award (2001) 受賞。作品はオーストラリア国立美術館、オーストラリア国会議事堂、ハンブルグ工芸美術博物館、ダーウィン北部準州美術館、南クイーンズランド大学などに収められています。同氏はオーストラリアと日本に居住。

さらにもう一つの作品群があります。それはベヒシュタインのピアノを含め、ここで紹介した作品の解説が記されているボードです。矢萩喜徳郎の制作

です。いずれも計算し尽くされた、洗練されたものです。同氏は、グラフィックデザイナー、彫刻家、建築家、椅子デザイナー、写真家等の肩書きを持つクロスオーバーな芸術家で、東京国際フォーラムのサイン計画でグッドデザイン賞受賞、ロンドンのビクトリア & アルバート博物館でのアートダイレクターを務めるなど、国際的なアーティストです。

というわけで、西9号館には、20世紀初頭のピアノ、ベルリンのベヒシュタインにはじまり、20世紀のフランスの具象版画、21世紀の日本のテキスタイル、オーストラリアの抽象度の高いエッチングの作品が肩を並べています。本物の持つ限りない存在感を感じる事が可能です。

このような Arts 作品が展示されるためには、当時の大学院社会理工学研究科長 圓川隆夫教授、施設運営部の関係各位を始め多くの方のご協力とご理解が必要でした。記して皆様に感謝します。最後になりましたが、西9号館に限らず、東工大キャンパスの多くの空間に、Arts 作品が並ぶことを心から期待したいと思います。

東工大の美術的環境を整備する発端になった FD 研修会報告が東工大クロニクル、No.386、2004年3月に掲載されていますので、ご参照下さい。

注) 撮影は高田友秀氏、小松崎靖氏

(社会理工学研究科専攻 教授)



◇ 平成19年春の褒章

次の方が、平成19年春の褒章を受章されました。

紫 綬 褒 章 おかだ のりひろ
岡田 典弘 (教授)

◇ 平成19年春の叙勲

次の方が、平成19年春の叙勲を受章されました。

瑞宝双光章 さかた みつる
坂田 満
(元総合理工学研究科等事務部長)

2007年度就職説明会

「留学生のためのキャリアトーク」を開催

廣瀬 幸夫

「留学生のためのキャリアトーク」(留学生就職専門委員会主催)が、去る4月11日(水)西9号館コラボレーションルームにおいて、日本企業への就職に関心のある留学生(参加登録数、約60名)を集めて開催されました。

理事・副学長(教育担当)三木先生の開会のご挨拶に続いて、主な内容は以下の通りです。

- 大学の留学生就職支援体制
留学生就職専門委員会 廣瀬幸夫
- 日本での就職活動の進め方
(株)ディスコ国際部 内藤 均氏
- 先輩による就職活動体験談
野村証券(株) 中村将典氏

三木先生から、「世界的な競争の中にあって日本の企業は海外市場に活路を求めています。こうした状況にあって、国際的に活躍できる留学生は貴重な存在です。留学生自身は研究室に閉じこもらず、東工大以外にも視野を広げ、さらに、日本の企業で働いて、より多く日本のことを知ってもらいたい。是非この機会を通じて就職活動が順調に運ぶことを期待しています」とのお言葉がありました。

最近の東工大留学生の就職現状と留学生就職専門委員会の具体的な活動を筆者(廣瀬)から報告しました。内藤氏から来年3月卒業を前提とした就職活動の進め方を説明していただきました。先輩からのお話として、中村氏からは就職活動の苦労話や東工大生の新しい就職分野である金融関係の仕事の話をしていただきました。

今年は新たに、企業ブースを設け、説明会のあとに留学生が直接企業の方のお話を聞ける機会を作りました。参加していただいた企業は、次の6社です。NTT 先端技術総合研究所、山武、野村証券、矢崎総業、三菱工業、キャノンイメージングシステムテクノロジーズ。留学生に関心を持っていただける企業に直接話が聞ける機会は、留学生にとって滅多にないことで好評でした。

今後は、今回参加した留学生を中心にメーリングリストを作成し、就職活動や企業の情報を当委員会から提供していく予定です。さらに、経済産業省と

文部科学省による「アジア人財資金構想」が近々公募されます。これが採択されれば、留学生の日本企業への就職支援システムが整備され、大学としての体制がさらに明確になることが期待できます。東工大留学生のうち年間100人余の就職希望者が新しい就職支援システムの恩恵に与ることになるでしょう。

大岡山とすずかけ台の「キャンパス将来計画」策定される

安田 幸一*, 屋井 鉄雄**,
本藏 義守***

留学生就職専門委員会メンバー 一覧

所属(職名)	氏名	内線	役割
留学生センター教授	廣瀬幸夫	3520	全体統括
留学生センター准教授	平川八尋	3376	留学生全般動向
大学院理工学研究科教授	榎 敏明	2242	理系留学生
大学院理工学研究科教授	手塚育志	2498	材料系留学生全般
大学院理工学研究科准教授	神田 学	2768	工系留学生全般
大学院情報理工学研究科 教授	村上視哉	2159	機械系留学生
大学院情報理工学研究科 教授	中嶋正之	2183	電気・情報系留学生
大学院社会理工学研究科 教授	村木正昭	2358	社会理工・化工系留学生
大学院生命理工学研究科 教授	広瀬茂久	5726	生命系留学生
精密工学研究所教授	肥後矢吉	5044	精研を含む4研究所
大学院総合理工学研究科 教授	奥野喜裕	5659	総理工系留学生
精密工学研究所教授	北條春夫	5078	総理工系留学生
大学院イノベーションマネジメント研究科教授	京本直樹	8946	イノベーションマネジメント系
学務部学生支援課	堤田直子	3012	専門委員会事務担当

本学の中期目標は、「施設設備の整備・活用等に関する目標」のひとつに「キャンパス環境の充実を図る」を掲げており、そのための措置として中期計画において、「21世紀キャンパス構想を策定し、可能なものから実施することにより、都市型及び郊外型大学キャンパスにふさわしい施設・景観等の環境整備を図る」ことを定めていました。このため、平成17年10月に企画室施設整備専門班内に各キャンパスの将来計画策定ワーキンググループを設置して、各キャンパスについて検討を進めてまいりました。

その結果、平成18年12月に大岡山・すずかけ台両キャンパスについて、①進化と創造、自然環境の保全、②知の創出と継承、③人の重視、④安全・安心の向上、⑤地域・社会貢献の向上、⑥持続性・発展性の向上という6つの理念のもとでキャンパス将来計画を策定しました。限られた紙面ではありますが、学内外のみなさまにお知らせいたします。

・大岡山キャンパス将来計画「時一空を緑でつなぐ大岡山キャンパス」

大岡山キャンパスは、大正13年（1924年）4月に蔵前より移転してきて以来、80年以上本学の顔としての位置付けを有してきましたが、その長い歴史や大学の急速な成長が故に、施設の老朽化、空間利用・交通導線の混乱、建物景観の統一性のなさ、などといった課題も多く抱えてきました。

そこで、この長い歴史や伝統を活かしながらも新しいキャンパス空間を生み出すために、時間軸・空間軸・緑地軸という3つの軸を中心に、以下の6つの空間コンセプトをもってキャンパスを構成していくことを基本方針とすることとしました。

1. 駅前広場空間と密接に関連した多層的機能空間
2. 緑地軸と広場空間のネットワーク化



開会のご挨拶をされる理事・副学長（教育担当）三木先生

（留学生就職専門委員会（留学生センター））

3. 歩行者専用ゾーンと駐車場配置
4. 歴史と伝統に培われたテクノロジーと文化が薫る空間
5. 地域と大学との関係の親密化
6. 持続可能なインフラネットワーク

これらのコンセプトを将来にわたり遵守することによって、よりよい大岡山キャンパスを創りだしていきます。特に、学内外の緑道との連携によって本学の緑の軸線を形成し、学内外の利用者に公園やポケットパークなどの憩いの場を提供する、オープンなキャンパスの実現を目指し、環境整備を進めます。

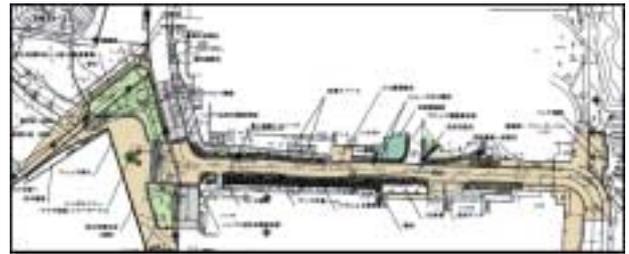


・すずかけ台キャンパス 将来計画「ペリパトスの 研社21」

すずかけ台キャンパスは昭和50年（1975年）の開設の後、長期的な視点に基づくキャンパス計画の推進が必ずしも十分ではなく、魅力あるキャンパス空間を未だに形成していない実情にあるため、キャンパス環境の整備が最重要とされてきました。

そこで、先の理念の下、道、緑、安心、配置、建物、インフラに関して今後キャンパスが長く守るべき6つのルールを定めた上で、以下の6つの空間計画コンセプトに基づいてキャンパス環境を造り上げることをキャンパス計画の基本方針としました。

1. シンボリックなツインコリドーと多層的な機能配置
2. 自然と共存するゾーニング
3. ペリパトスのネットワーク
4. 外周道路への駐車場の配置と歩行者ゾーン
5. 広場空間の分散配置とネットワーク化
6. 持続可能なインフラネットワーク



すずかけ台キャンパス将来計画に基づく先行整備（案）
（すずかけ門下から大会館に至る道路空間の整備）

本計画の先行的な整備は、既に平成18年度末より開始されています。今後は、アリストテレスの学園内の散策路（ペリパトス）が屋外教室になって、若き人材を多数輩出した故事に重ねた本計画の名称に相応しい魅力的なキャンパス環境を目指し、すずかけ台キャンパスの豊かな自然を活かしつつ、すずかけ台駅からのトンネル計画や、複数のシンボリックな広場空間や運動広場の整備、自然に触れる散策路の整備等を進めていきます。

今後は、このキャンパス将来計画に基づき、みなさまの目に見える形でキャンパス整備を進めてまいります。既に両キャンパスとも、この将来計画を基にいくつかの計画が動き始めており、新たなキャンパス環境が生み出されつつあります。

これらの計画は概ね5年を経過した2011年頃を目途に事後評価を行い、情勢の変化等も適宜反映しながら計画の見直しをすることとしています。

なお、本計画の概要については各キャンパスともリーフレットにまとめられ、全教員には配布されたところではありますが、リーフレットをお持ちでない方で本計画に興味のある方は、学内各所及び施設運営部施設総合企画課において配布いたしておりますので、是非ご一読ください。また、ホームページにも掲載しております。

<http://www.sisetu.titech.ac.jp/master/index.htm>

- （ *大岡山キャンパス WG 主査
大学院理工学研究科 准教授、
**すずかけ台キャンパス WG 主査
大学院総合理工学研究科 教授、
***企画室長、理事・副学長（企画担当））

学 生

報 告

The 2nd China-Japan-Korea Student Symposium on Mechanical Engineering (Thermal/Fluid engineering)

畠山 友行*, 佐藤 允**,
志村 祐康***, 藤井 義喜****

2007年3月15日から3月17日にわたり、中国の浙江大学において The 2nd China-Japan-Korea Student Symposium が開催された。このシンポジウムは浙江大学 (Zhejiang University), 韓国科学技術院 (Korea Advanced Institute of Science and Technology, KAIST) 及び東京工業大学に所属する熱流体工学分野の学生を対象としており、先生方の御支援の下で学生によって運営され、学生の意見交換及び国際交流を第一目的とした学生主体のワークショップである。15日のレセプションパーティー、16日の講演及び17日の研究室見学・杭州見学から構成され、学生同士で多くの時間を過ごすことができた。この報告では、シンポジウムの内容を示すとともに、日中韓の国際交流について考えていきたいと思う。

はじめに、シンポジウムの内容について触れようと思う。15日は国際空港のある上海市から、日本の新幹線に相当する鉄道に乗って杭州に向かった。杭州駅で浙江大学の学生二人に出迎えていただけたため、何ら不都合なく移動し、参加登録を済ませることができた。幹事校の親切な対応に胸が熱くなった。



中国の CEN 先生による開催の挨拶

夕食としてレセプションパーティーが開かれ、三校の学生が同じテーブルにつき、自己紹介や食事等を通じて各国の文化や考え方について話すことができ、非常に有意義であった。その後、有志によって中国の国技である卓球を楽しみ、交流を深めることができた。

16日にはオーラルセッション16件及びポスターセッション13件の発表が行われた。これらのセッションでは研究について各国の学生と有意義な議論を交わすことができた。ポスターセッションでは口頭発表では行えないような詳細な内容まで1対1の議論を行うことができるが、今回はオーラルセッションについても、講演後に議論が繰り広げられていた。このように各国の学生達と議論を重ねることで、自分自身の研究について再考し、また幅広い視点から自分の研究分野を見つめ直す良い機会となった。今回のシンポジウムでは、浙江大学、KAIST に比べると東工大からの参加はオーラルセッション4件のみと少なく、今後さらに多くの東工大の学生が国際交流の意識を高めて参加することが望まれる。学会とは違った、学生同士がディスカッションを行うことができる環境はとても新鮮であり、大変貴重な体験をさせていただいたと思う。



講演会場の様子



機械宇宙システム専攻に所属する佐藤允さんによる講演



研究室見学の様子

17日の午前には研究室見学が行われ、ダイオキシンに関する実験室とクリーンエネルギー利用に関する主要研究室を訪れることができました。そこでは実験装置や施設に関する説明が主だったが、それらに関する理解や、クリーンエネルギーの将来性について認識を深める機会となった。また午後からは、浙江大学の学生に案内していただき、大学近辺にある有名な観光地、西湖を訪れた。西湖は一万二千年前に形成されたと考えられている潟であり、中国の四大美人の一人、西施が入水したという伝承が西湖という名を定着させている。朝は太極拳を行う人々で、昼は観光客で賑わっており、研究の気分転換に訪れるには格好の場所である。18日に帰路に着いたが、その際にも浙江大学の学生に見送っていただき、本当に厚い持て成しを受けたと思う。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、冒頭に述べたようにこのシンポジウムの主な目的は学生の国際交流であり、研究発表の場のみならず、移動や食事においても浙江大学と KAIST の学生達と時間を共に過ごして各国の文化を肌で感じることができた。それにより、科学の共通語としての英語の重要性を再認識するとともに、国際交流としては寧ろ英語よりもそれぞれの母国語を、そして過去から綴られてきた文化こそ学ばなければならないと実感した。中国、韓国及び日本は第2次世界大戦を経て、三国の国際関係には靖国問題や国境問題等が存在するようになった。それらを乗り越えて東アジアの国々が協力していくには感情的な先入観を排除する必要がある、それは各国が1000年以上もの長きに亘り互いに影響を及ぼして折り綴ってきた文化について客観的に触れ合い、それらについて共通の認識を持つ事によって達成されると思う。そして、同じ研究者として私達が科学という共通の基盤に立っていくことは、国境を乗り越えて話し合える



学生同士の乾杯（15日夕食にて）



集合写真

きっかけの一つであると考えさせられた。来年以降もこのシンポジウムが継続され、多くの学生が参加することにより、各国の学生がさらに東アジアの国際交流に目を向けて互いに解り合えるようになる事を期待している。来年このシンポジウムは東京工業大学で開催される予定であり、そのようなシンポジウムになるようにしたいと思う。

最後になりますが、このような機会を設けて下さいました機械系の先生方、そしてこの企画に賛同して下さいました浙江大学及び KAIST の熱流体分野の先生方に心から感謝申し上げます。今後もこのような会を継続していただけるよう、心から願います。

- (*理工学研究科機械制御システム専攻 博士後期課程 2年,
- **理工学研究科機械宇宙システム専攻 博士後期課程 1年,
- ***理工学研究科機械宇宙システム専攻 博士後期課程 1年,
- ****理工学研究科機械制御システム専攻 修士課程 1年)

お知らせ

平成19年度 類別クラス担任・クラス担当助言教員等一覧

[理 学 部]

2007/4/1 現在

類主任	クラス	クラス担任教員	内線	部屋番号	クラス担当助言教員	内線	部屋番号
第1類 坂井典佑 教授 (物理学)	ア-1	長谷川 健 准教授 (化 学)	2238	西4-410	長谷川 健 准教授 (化 学)	2238	西4-410
	ア-2	白水 徹也 准教授 (物 理 学)	2385	本館1-90	白水 徹也 准教授 (物 理 学)	2385	本館1-90
	イ-1	村上 斉 准教授 (数 学)	3387	本館3-19	村上 斉 准教授 (数 学)	3387	本館3-19
	イ-2	三好 直人 准教授 (情報科学)	3218	西8W-702	三好 直人 准教授 (情報科学)	3218	西8W-702
	ウ-1	綱川 秀夫 教 授 (地球惑星)	2459	石2-207	綱川 秀夫 教 授 (地球惑星)	2459	石2-207
	ウ-2	水本信一郎 准教授 (数 学)	3300	本館3-48	水本信一郎 准教授 (数 学)	3300	本館3-48
	エ-1	田中 圭介 准教授 (情報科学)	3884	西8W-1108	田中 圭介 准教授 (情報科学)	3884	西8W-1108
	エ-2	沖本 洋一 准教授 (化 学)	3895	本館1-32A	沖本 洋一 准教授 (化 学)	3895	本館1-32A

[工 学 部]

類主任	クラス	クラス担任教員	内線	部屋番号	クラス担当助言教員	内線	部屋番号
第2類 森 健彦 教授 (有機材料工学)	2-1	河村 憲一 准教授 (金 属)	3137	南8-305	河村 憲一 准教授 (金 属)	3137	南8-305
	2-2	扇澤 敏明 准教授 (有 機)	2423	南8-609	扇澤 敏明 准教授 (有 機)	2423	南8-609
	2-3	篠崎 和夫 准教授 (無 機)	2518	南7-816	篠崎 和夫 准教授 (無 機)	2518	南7-816
第3類 碓屋隆雄 教授 (化学工学)	3-1	三上 幸一 教 授 (応 化)	2142	本3-23	鈴木 榮一 准教授 (応 化)	2118	南1-616
	3-2	益子 正文 教 授 (化 工)	3036	南1-420	湖野 哲郎 准教授 (化 工)	2474	南1-312
	3-3	飯島 淳一 教 授 (経 営)	3942	西9-522	妹尾 大 准教授 (経 営)	2371	西9-523
第4類 伊能教夫 教授 (機械科学)	IV-1	萩原 一郎 教 授 (機械科学)	3555	石6-219	大河 誠司 准教授 (機械科学)	3308	石6-313
	IV-2	中村 春夫 教 授 (機械知能)	3173	西8W-307	山崎 敬久 准教授 (機械知能)	2509	石1-405
	IV-3	宮内 敏雄 教 授 (機械宇宙)	3183	石1-410	堀内 潔 准教授 (機械宇宙)	2638	石1-708
	IV-4	持丸 義弘 教 授 (開 発)	2164	石4-202	高橋 邦夫 准教授 (開 発)	3915	石4-201
		早川 朋久 准教授 (制 御)	2762	西8W-402	蜂谷 豊彦 准教授 (経 営)	2253	西9-422
第5類 古屋一仁 教授 (電気電子工学)	V-1	村田 剛志 准教授 (情報工学)	2684	西8E-503	村田 剛志 准教授 (情報工学)	2684	西8E-503
	V-2	藤田 英明 准教授 (電気電子)	2696	南3-609	藤田 英明 准教授 (電気電子)	2696	南3-609
	V-3	齋藤 豪 准教授 (情報工学)	3956	西8E-405	齋藤 豪 准教授 (情報工学)	3956	西8E-405
	V-4	西山 伸彦 准教授 (電気電子)	3593	南3-823	西山 伸彦 准教授 (電気電子)	3593	南3-823
	V-5	松本隆太郎 准教授 (情報工学)	3864	南3-311	松本隆太郎 准教授 (情報工学)	3864	南3-311
	V-6	岡田 健一 准教授 (電気電子)	2258	南3-811(314)	岡田 健一 准教授 (電気電子)	2258	南3-811(314)
	V-7	山岡 克式 准教授 (情報工学)	3763	南3-308	山岡 克式 准教授 (情報工学)	3763	南3-308
	V-8	中川 貴 准教授 (電気電子)	2394	南3-717	中川 貴 准教授 (電気電子)	2394	南3-717
	V-9	吉瀬 謙二 准教授 (情報工学)	3698	西8E-903	吉瀬 謙二 准教授 (情報工学)	3698	西8E-903
	V-10	大山 真司 准教授 (制 御)	2543	南5-309	大山 真司 准教授 (制 御)	2543	南5-309
第6類 川島一彦 教授 (土木・環境工学)	VI-1	竹村 次朗 准教授 (土木・環境)	2592	緑1-502	八木 宏 准教授 (土木・環境)	2591	西8W-205
		神田 学 准教授 (開 発)	2768	石4-402			
	VI-2	竹内 徹 准教授 (建 築 学)	3165	緑1-406	奥山 信一 准教授 (建 築 学)	3488	緑3-204
VI-3	田中 隆一 准教授 (社会工学)	3760	西8W-607	金子 昭彦 准教授 (社会工学)	3313	西9W-637	

[生命理工学部]

類主任	クラス	クラス担任教員	内線	部屋番号	クラス担当助言教員	内線	部屋番号
第7類 本川達雄 教授 (生命科学)	7-1	清尾 康志 准教授 (生命科学)	5136	フ創セ4F	和地 正明 准教授 (生命工学)	5770	J2-1003
	7-2	幸島 司郎 准教授 (生命科学)	2657	西3-706	細谷 孝充 准教授 (生命工学)	5733	B1-914
	7-3	大谷 弘之 准教授 (生命工学)	5786	B2-1020	田川 陽一 准教授 (生命科学)	5791	B2-1221

() 内は教員の所属を示す。

平成19年度 学科長及び2年次以降の助言教員名簿

2007/4/5 現在

学部・学科		学科長及び類主任			2年次助言教員			3年次助言教員			4年次助言教員		
		職名	氏名	内線	職名	氏名	内線	職名	氏名	内線	職名	氏名	内線
理 学 部	数 学 科	教授	志賀 啓成	2219	准教授	増田 一男	2215	准教授	川中子 正	2211	各学士論文研究指導教員		
	物 理 学 科	准教授	上妻 幹男	2451	准教授	椎野 正壽	2077	准教授	山本 直紀	2481	准教授	上妻 幹男	2451
	化 学 科	教授	岡田 哲男	2612	准教授	松本 隆司	3531	准教授	北島 昌史	3812	各学士論文研究指導教員		
	情 報 科 学 科	教授	高橋 渉	3208	准教授	鹿島 亮	3502	准教授	千葉 滋	2712	各学士論文研究指導教員		
	地球惑星科学科	教授	河村 雄行	2616	教 授	井田 茂	2620	教 授	井田 茂	2620	教 授	井田 茂	2620
	第 1 類 主 任	教授	坂井 典佑	2082									
工 学 部	金 属 工 学 科	教授	丸山 俊夫	3136	准教授	竹山 雅夫	3138	准教授	金澤 幸	3586	准教授	史 蹟	3145
	有 機 材 料 工 学 科	教授	森 健彦	2427	准教授	浅井 茂雄	2432	准教授	バツハママティン	2425	各学士論文研究指導教員		
	無 機 材 料 工 学 科	教授	柴田 修一	2522	准教授	安田 公一	2526	准教授	矢野 哲司	2523	准教授	中島 章	2525
	化 学 工 学 科 (応用化学コース)	准教授	(学 科 長・ 応化コース長) 土井 隆行	2111	准教授	桑田 繁樹	2150	准教授	山中 一郎	2144	各学士論文研究指導教員		
		教授	(化工コース長) 太田口和久	2113	准教授	関口 秀俊	2110	准教授	相田 隆司	2883			
	(化学工学コース)	教授											
	高 分 子 工 学 科	教授	上田 充	2127	准教授	野島 修一	2132	教 授	安藤 慎治	2137	准教授	古屋 秀峰	2806
	機 械 科 学 科	教授	大熊 政明	2784	教 授	花村 克悟	3705	教 授	杉本 浩一	2161	各学士論文研究指導教員		
		准教授			准教授	八木 透	3628	准教授	伏信 一慶	2500			
	機 械 知 能 シ ス テ ム 学 科	教授	岩附 信行	2538	准教授	原 精一郎	2536	准教授	岡田 昌史	2535	各学士論文研究指導教員		
	機 械 宇 宙 学 科	教授	平井秀一郎	3336	准教授	吉野 雅彦	2506	教 授	轟 章	3178	准教授	店橋 護	3181
	制 御 シ ス テ ム 工 学 科	教授	藤田 政之	3813	准教授	平田 敦	2163	准教授	倉林 大輔	2548	教 授	藤田 政之	3813
	経 営 シ ス テ ム 工 学 科	教授	村木 正昭	2358	准教授	梅室 博行	2246	准教授	矢島 安敏	3321	各学士論文研究指導教員		
	電 気 電 子 工 学 科	教授	荒井 滋久	2512	教 授	荒井 滋久	2512	教 授	水本 哲弥	2578	各学士論文研究指導教員		
	電 子 物 理 工 学 科										各学士論文研究指導教員		
	情 報 工 学 科	教授	上野 修一	2576	教 授	上野 修一	2576	准教授	一色 剛	2842	各学士論文研究指導教員		
土 木 ・ 環 境 工 学 科	准教授	竹村 次朗	2592	准教授	福田 大輔	2577	准教授	市村 強	3725	准教授	浦瀬 太郎	3548	
建 築 学 科	教授	小河 利行	3156	准教授	宮本 文人	2384	准教授	湯浅 和博	2832	各学士論文研究指導教員			
社 会 工 学 科	教授	樋口洋一郎	2651	准教授	宇佐美 誠	2933	准教授	真野 洋介	3191	教 授	樋口洋一郎	2651	
開 発 シ ス テ ム 工 学 科	准教授	高橋 邦夫	3915	准教授	神田 学	2768	准教授	江頭 竜一	3584	各学士論文研究指導教員			
第 2 類 主 任	教授	森 健彦	2427										
第 3 類 主 任	教授	碓屋 隆雄	2636										
第 4 類 主 任	教授	伊能 教夫	2642										
第 5 類 主 任	教授	古屋 一仁	2568										
第 6 類 主 任	教授	川島 一彦	2922										
生 命 理 工 学 部	生 命 科 学 科	教授	宍戸 和夫	5714	教 授	喜多村直実	5701	各コース主任			各学士論文研究指導教員		
	生 命 工 学 科	教授	藤平 正道	5784	准教授	福居 俊昭	5766	各コース主任			各学士論文研究指導教員		
	第 7 類 主 任	教授	本川 達雄	2659									

平成19年度 専攻長一覧

(理工学研究科)

専攻	職名	氏名	内線電話	備考
数 学	教授	村田 實	2210	
基礎物理学	教授	柴田 利明	2461	
物性物理学	教授	奥田 雄一	2458	
化 学	教授	石谷 治	2240	
地球惑星科学	教授	河村 雄行	2616	
物質科学	教授	海津 洋行	2234	専攻長
	教授	安藤 慎治	2137	副専攻長
材料工学	教授	水流 徹	3143	
有機・高分子物質	教授	手塚 育志	2498	
応用化学	教授	鈴木 寛治	2148	
化学工学	教授	太田口和久	2113	
機械物理工学	教授	遠藤 満	2507	
機械制御システム	教授	齋藤 義夫	2531	
機械宇宙システム	教授	京極 啓史	2821	
電気電子工学	教授	石井 彰三	2197	
電子物理工学	教授	松澤 昭	2508	
集積システム	教授	酒井 善則	2193	
土木工学	教授	池田 駿介	2588	
建 築 学	教授	藍澤 宏	3151	
国際開発工学	教授	持丸 義弘	2164	
原子核工学	教授	藤井 靖彦	2378	

(生命理工学研究科)

専攻	職名	氏名	内線電話	備考
分子生命科学	教授	宍戸 和夫	5714	
生体システム	教授	岡田 典弘	5742	
生命情報	教授	岸本 健雄	5724	
生物プロセス	教授	三原 久和	5756	
生体分子機能工学	教授	赤池 敏宏	5790	

(総合理工学研究科)

2007/4/1 現在

専攻	職名	氏名	内線電話	備考
物質科学創造	教授	彌田 智一	5266	
物質電子化学	教授	菅野 了次	5401	
材料物理科学	教授	平山 博之	5637	
環境理工学創造	教授	吉田 尚弘	5506	
人間環境システム	教授	翠川 三郎	5602	
創造エネルギー	教授	堀田 栄喜	5696	
化学環境学	教授	馬場 俊秀	5480	
物理電子システム創造	教授	岩井 洋	5471	
メカノマイクロ工学	教授	北條 春夫	5078	
知能システム科学	教授	出口 弘	5421	
物理情報システム	教授	羽鳥 好律	5528	

(情報理工学研究科)

専攻	職名	氏名	内線電話	備考
数理・計算科学	教授	佐々 政孝	3228	
計算工学	教授	佐藤 泰介	2186	
情報環境学	教授	宇治橋貞幸	2158	

(社会理工学研究科)

専攻	職名	氏名	内線電話	備考
人間行動システム	教授	早坂 眞理	2263	
価値システム	教授	往住 彰文	2680	
経営工学	教授	伊藤 謙治	2362	
社会工学	教授	山室 恭子	2266	

(イノベーションマネジメント研究科)

専攻	職名	氏名	内線電話	備考
技術経営	教授	比嘉 邦彦	3571	
イノベーション	教授	長田 洋	8979	

人事異動

[] 内は旧所属

(教員)

平成19年3月16日付

須崎 友文すざきともふみ：准教授に採用

応用セラミックス研究所附属セキュアマテリアル研究センター [東京大学大学院新領域創成科学研究科 助手] 博士 (理学)

④ 1972.6

⑤ 東京大学理学部物理学科1995, 同大学院理学系研究科修士課程1997, 同博士課程1999

⑥ 固体物理学, 酸化物界面工学

[学位論文] 近藤絶縁体の高分解能光電子分光: 東京大学1999 内線 5360

平成19年4月1日付

和田 雄二わだゆうじ：教授に採用

大学院理工学研究科応用化学専攻 [岡山大学大学院自然科学研究科 教授] 工学博士

④ 1954.8

⑤ 東京工業大学工学部化学工学科1977, 同大学院理工学研究科博士前期課程1979, 同後期課程1982

⑥ ナノハイブリッド化学, 光機能化学, マイクロ波駆動化学

[学位論文] Enhancement of Catalytic Activity of Solid Acids by Adsorption of Inorganic Gases: 東京工業大学1982 内線 2879

岡田 健一おかだけんいち：准教授に昇任

大学院理工学研究科電子物理工学専攻 [精密工学研究所 助手] 博士 (情報学)

④ 1975.2

⑤ 京都大学工学部電子工学科1998, 同大学院博士課程2003

⑥ 高周波アナログ回路設計

[学位論文] 集積回路における性能ばらつき解析に関する研究: 京都大学2003 内線 2258

小野 潔おのきよし：准教授に採用

大学院理工学研究科土木工学専攻 [大阪大学大学院工学研究科 助教授] 博士 (工学)

④ 1968.5

⑤ 大阪大学工学部土木工学科1992, 同大学院工学研究科修士課程1994

⑥ 鋼構造

[学位論文] 鋼製橋脚の耐震性能評価手法に関する研究: 大阪大学2002 内線 3099

阿部 直也あべなおや：准教授に採用

大学院理工学研究科国際開発工学専攻 [国立環境研究所 契約研究員] Ph. D.

④ 1969.10

⑤ 東京工業大学工学部社会工学科1993, 同大学院理工学研究科修士課程1995, Ph. D., Department of Applied Economics and Management, Cornell University, 2006

⑥ 環境経済学

[学位論文] Studies in Resource Economics: Scrap Tire Abatement and Watershed Management for Source Water Protection: Cornell University 2006 内線 3797

グリドネフ イリヤグリドネフイリヤ：准教授に採用

大学院理工学研究科工学基礎科学講座 [東北大学理学部 助教授] 科学博士

④ 1963.12

⑤ モスクワ大学化学部石油有機触媒研究科修士課程1986, 同博士課程 (化学) 1989

⑥ 有機金属化学, 核磁気共鳴

[学位論文] 不飽和化合物のアシルアミド化反応 (化学博士), アリルホウ素化合物の動的な特性 (科学博士): モスクワ大学1989 (化学博士), ネースメーヤノフ多元素化学研究所1998 (科学博士) 内線 3723

いしひ 秀明^{ひであき}：准教授に採用



大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻 [東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻助手] Ph. D.

Ⓔ 1972.5

ⓧ 筑波大学第三学群工学システム学類1996, 京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻 修士課程1998, トロント大学工学部電気コンピュータ工学科 Ph. D. 課程2002

Ⓣ システム制御, ネットワーク化制御, ハイブリッド制御, 制御論における確率的アプローチ [学位論文] Limited Data Rate in Control Systems with Networks: トロント大学2002 内線 5371

あきやま 泰^{ゆたか}：教授に採用



大学院情報理工学研究科計算工学専攻 [(独)産業技術総合研究所生命情報科学研究センター 研究センター長] 工学博士

Ⓔ 1961.5

ⓧ 慶應義塾大学工学部電気工学科1984, 同大学院理工学研究科修士課程1986, 同博士課程1990

Ⓣ バイオインフォマティクス, パターン情報処理, 並列処理応用

[学位論文] The Gaussian Machine: A Stochastic, Continuous Neural Network Model: 慶應義塾大学1990 内線 3645

ささがわ 崇男^{たかお}：准教授に採用



応用セラミックス研究所セラミックス機能部門 [スタンフォード大学応用物理学科 研究職員, ローレンスバークレー国立研究所 客員研究員] 博士 (工学)

Ⓔ 1971.6

ⓧ 東京大学工学部化学生命工学科1995, 同大学院超伝導工学専攻修士課程1997, 同博士課程2000

Ⓣ 固体物理化学, 単結晶工学, 先端量子計測, ナノシミュレーション

[学位論文] 精密組成制御した高温超伝導体単結晶における量子化磁束の挙動: 東京大学2000 内線 5366

つしま 将司^{しょうじ}：准教授に昇任



炭素循環エネルギー研究センター二酸化炭素隔離分野 [大学院理工学研究科機械制御システム専攻 助手] 博士 (工学)

Ⓔ 1972.5

ⓧ 大阪大学工学部機械工学科1995, 同大学院博士課程1999

Ⓣ 熱工学, 流体工学, 燃焼工学, 燃料電池 [学位論文] 噴霧火炎の巨視的燃焼挙動と光学計測に関する研究: 大阪大学1999 内線 3604

うえにし 哲雄^{てつお}：教授に採用



外国語研究教育センター [北星学園大学文学部 教授] 文学修士

Ⓔ 1952.6

ⓧ 東京大学文学部第Ⅲ類 (語学文学) 1976, 同大学院人文科学研究科

修士課程1987

Ⓣ アメリカ文学・文化

[学位論文] A Study of John Dos Passos: 東京大学1987 内線 2265

かしわぎ 孝夫^{たかお}：教授に採用



統合研究院, 理工学研究科機械制御システム専攻 (兼務) [東京農工大学大学院 教授, 評議員, 図書館長] 工学博士

Ⓔ 1946.12

ⓧ 東京工業大学工学部生産機械工学科1970, 同大学院理工学研究科修士課程生産機械工学専攻1974

Ⓣ 環境・エネルギーシステム, 冷凍・空気調和, 応用熱工学

[学位論文] ノズル内臨界流の流動及び熱伝達に関する研究: 東京工業大学1979 内線 3425

(事務職員)

平成19年4月1日付

伊藤 正ただし：採用 学務部長 [鳥取大学財務部長]

⑤ 1948.7

④ 京都教育大会計課，文部省管理局指導課，同企画調整課，同専門職員，同私学振興課庶務・調査係長，同高等教育局私学助成課庶務・調査係長，同助成第二係長，第三係長，大阪大学入試課長，名古屋大学厚生課長，北見工業大会計課長，横浜国立大学主計課長，群馬大学主計課長，熊本大学主計課長，茨城工業高等専門学校事務部長，高知大学学生部長，同財務部長

佐藤 政弘まさひろ：採用 施設運営部長 [鹿児島大学施設部長]

⑤ 1952.10

④ 筑波大学施設部第二建築課，文部省大臣官房会計課用度班，同管理局教育施設部工営課，同大臣官房文教施設部技術課，同企画係主任，同指導課専門職員，同技術課建築第一係長，同企画係長，北陸先端科学技術大学院大学総務部施設課長，九州大学施設部建築課長，同企画課長，東京大学施設部整備計画課長，文部科学省大臣官房文教施設部計画課整備計画室施設点検評価推進専門官，同施設企画課監理室補佐

松本 胤明たねあき：昇任 総務部評価・広報課長 [総務部総務課課長補佐]

⑤ 1955.7

④ 山口大学，東京工業大学，総合研究大学院大学，同総務課企画調査係長，東京工業大学工学部人事掛長，同工学部等人事掛長，同庶務部人事課給与掛長，同任用掛長，同総務部人事課第一任用掛長，同総務課総務掛長，同人事課専門員，同評価・広報課課長補佐，同施設運営部施設企画・安全管理課課長補佐，同施設総合企画課課長補佐（企画担当）

笹田 慶太けいた：採用 学務部入試課長 [広島大学入試企画・実施グループ入試課長]

⑤ 1965.6

④ 横浜国立大学教育学部，文部省初中局小学校課，同教科書課，同検定調査第二係主任，同検定調査第二係長，同検定調査第一係長，同参事官付情報教育係長，埼玉大学入試課長

戸村 和弘かずひろ：昇任 研究協力部産学連携課長 [研究協力部研究業務課課長補佐]

⑤ 1953.4

④ 筑波大学，東京工業大学，同庶務部人事課福祉掛長，同理学部庶務掛長，同庶務部庶務課庶務掛長，同人事課専門員，同総務部人事課専門員，同企画広報室専門員，総合研究大学院大学総務課課長補佐（企画調査室長兼務），同評価調査室長

五味 照明てるあき：採用 学術情報部情報基盤課長 [岐阜大学学術情報部情報戦略課長]

⑤ 1953.10

④ 東京農工大学図書館工学部分館，東京学芸大学図書館情報サービス課参考調査係長，同情報管理課収書係長，同図書館専門員，愛媛大学図書館情報管理課長，同学術情報部学術情報課長

貴志 武一たけかず：採用 学術情報部情報システム企画課



長 [千葉大学情報部情報企画課長]

④ 1955.7

① 日本国有鉄道，東京学芸大学教育学部附属学校部，同附属大泉中学校事務係長，同経理課給与係長，同企画課企画係長，同経理課情報企画係長，同補佐，長野工業高等専門学校学生課長，東北大学情報企画課長，同情報推進課長，千葉大学情報課長

高塚 三枝子みえこ：昇任 すすかけ台地区事務部学務課



長 [すすかけ台地区事務部総務課課長補佐]

④ 1950.11

① 総理府統計局，東京工業大学，同総合理工学研究科等生命理工学部事務掛長，同理工学研究科理学系用度掛長，同すすかけ台地区事務部庶務課庶務掛長，同総務課総務掛長，同課長補佐

掲載記事公募のお知らせ

広報・社会連携センターでは、「東工大クロニクル」をより充実した身近なものとしてみなさまにお読みいただくために、掲載記事を公募しております。

イベント紹介，研究成果，推薦書籍，サークル紹介，東工大にまつわる逸話など様々な内容の記事を掲載していきたいと考えておりますので，掲載ご希望の方は以下の連絡先まで御一報ください。詳しい執筆要領等をお送りいたします。（投稿は，原則大学の教職員，学生，名誉教授，卒業生など本学関係者に限らせていただきます）

なお，執筆要領，個人情報の取り扱いなどにつきましては，広報・社会連携センターのホームページ（<http://www.hyoka.koho.titech.ac.jp/prcenter/limited/bosyu.html>）にも掲載されておりますのでご参照ください。

総務部評価・広報課広報・社会連携係

TEL 03-5734-2975, 2976/FAX 03-5734-3661

E-mail: kouhou@jim.titech.ac.jp

◆ 謹告



本学すすかけ台地区事務部総務課総務係 北村 保きたむら たもつ氏（享年40歳）は，去る5月1日逝去されました。ここに深く哀悼の意を表し，謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

同氏は，平成元年4月1日 文部省学術国際局学術課に採用，平成3年4月7日に本学庶務部人事課職員掛に転任され，以来16年間大学のために尽力されました。

東工大クロニクル No. 421

平成19年5月31日 東京工業大学広報・社会連携センター発行©

広報・社会連携センター長 本藏義守（企画担当理事・副学長）

東工大クロニクル編集グループ

編集長 中島 求（情報理工学研究科准教授） 副編集長 山中浩明（総合理工学研究科准教授）

増田一男（理工学研究科准教授）鈴木榮一（理工学研究科准教授）菅 耕作（生命理工学研究科准教授）小西秀樹（社会理工学研究科教授）

藤村修三（イノベーションマネジメント研究科教授）谷口裕樹（資源化学研究所准教授）二ノ方壽（原子炉工学研究所教授）

秦 誠一（フロンティア創造共同研究センター准教授）

住所：東京都目黒区大岡山2-12-1-E3-3 〒152-8550 電話：03-5734-2975, 2976 FAX：03-5734-3661 E-mail：kouhou@jim.titech.ac.jp URL：http://www.titech.ac.jp/